

# 令和6年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

稲垣悟・後藤武俊

東北大学大学院教育学研究科

本稿は2003（平成15）年度より活動を継続している「東北大学学校ボランティア」事務局（以下、事務局）の2024（令和6）年度の取り組みを報告するものである。

## 1. 活動の概要

学校ボランティアは、東北大学大学院教育学研究科・先端教育研究実践センターの事業の一貫として行っている取り組みであり、同研究科の後藤武俊准教授を顧問とする事務局を設置して運営している。COVID-19の流行を契機に事務局機能をオンライン上へ移行しており、現在は東北大学の大学院生1名が所属して活動を行っている。

事務局は仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）と連携し、仙台市教委の実施する学生サポートスタッフ（以下、ボランティア）事業の仲介を担当する。具体的には、仙台市教委が市内の小中学校のボランティア要請を集約したものを、事務局が受け取り、ボランティア活動を希望する学生に対し周知を行っている。今年度も、昨年度までに引き続きGoogle Classroom（以下、Classroom）を活用し活動希望の学生を招待することで、ボランティア要請状況の周知と活動希望にかかる手続き（詳細は後述）を一元的に管理する体制とした。他に、仙台市教委との連絡ならびに活動を希望する学生個人との連絡については、事務局および事務局員のアドレスを用いて電子メールで行っている。

学校ボランティアの募集・招待は、広報資料および本研究科先端教育研究実践センターの管理するホームページを用いて行っている。広報資料については、オリエンテーションでの配布と、本研究棟内でのポスター掲示を行った。いずれも本事業の概要と連絡先を記載したものであり、活動を希望する学生には事務局へメールを送信してもらうことで、案内の返信とともにClassroomへの登録を行っている。昨年度以前よりClassroomに登録のあった学生については、登録継続を希望する旨の連絡があった者を除き、今年度の募集開始前に退出処理を行った。

ボランティア活動に際しては、仙台市教委の実施する研修会への参加ならびに「登録カード」の提出が必要となる。募集の開始に先立って、仙台市教委より配布された研修動画および資料をClassroomに掲載し、ボランティア活動を希望する学生が随時視聴できるようにした。併せて「登録カード」の提出先を同ページに設けており、希望する活動があればカードを記入・提出し、事務局へその旨連絡することとしている。またボランティア要請の掲載方法について、昨年度までは要請状況を集約したファイルをClassroomの「ストリーム」に直接アップロードしていたが、①他の諸連絡との混同を避ける②今年度の活

動終了時に削除等の対応が容易になるといった観点から、「資料」カテゴリにてアップロードすることとした。

## 2. 2024 年度ボランティア活動状況

本節では、2024 年度の仙台市教委からのボランティア要請状況と、本学学生のボランティア活動状況を報告する。

### 2-1. ボランティアの要請状況

今年度、本学において学生に周知したボランティア要請は 56 件であった。要請を受け次第、適宜追記して掲載し周知を行った。また別に、活動校と希望学生の間で予め内諾が得られていたケースが 3 件あり、これらについて当該学生への案内および登録カードの取次を行った。年間を通したボランティア要請の受理件数の推移は図 1 の通りである。

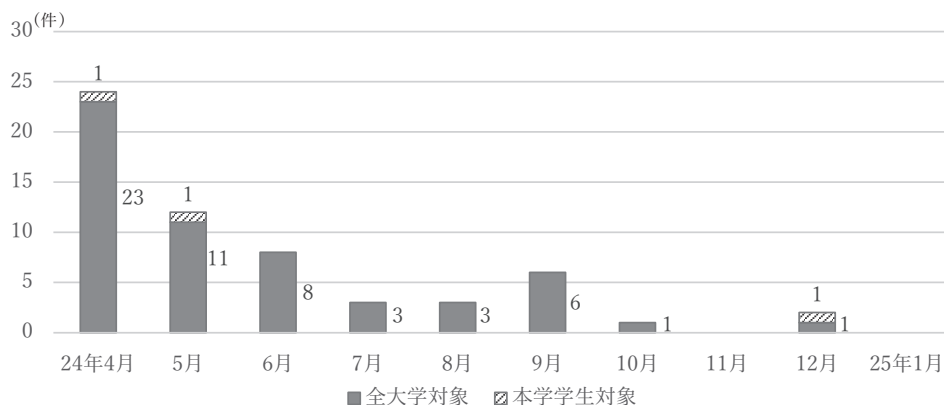


図 1 ボランティア要請の受理件数の推移

なお、申請期限が設定されていた要請については、期限を迎えたものから順に掲載を取り下げている。また一部の要請に関しては、募集を早期終了する旨の連絡を受け掲載を取り下げたが、原則として各要請に関する最新の募集状況は周知されていない。したがって事務局では、活動希望を申し出た学生との手続きに際し、既に募集が停止されている可能性も含めた案内を行っている。

仙台市教委では、ボランティアを活動内容に応じて表 1 のように分類し、募集を行っている。仙台市教委の作成する事業要項によれば、B のにこにこボランティアは「学校生活の中で配慮を要する児童に対する継続的、定期的な支援を行うボランティア」とされており、「大学で教職課程又は心理学を履修した者、又は履修している者」を対象とするものである。他方、C のすくすくボランティアは「発育測定や保健室において直接児童生徒にかかわる支援」とされ、「養護教諭免許取得に必要な科目を履修した者、又は履修してい

表1 仙台市教委からのボランティア要請の分類

種別	活動内容
A	一般ボランティア
	① 各教科における指導補助
	② 総合的な学習の時間における指導補助
	③ 特別活動（学校行事、クラブ活動）、道徳等の指導補助
	④ 情報教育における指導補助
	⑤ 学校図書館における指導補助
	⑥ 放課後や休み時間等における児童生徒の話し相手、相談相手
	⑦ 部活動指導補助
⑧ そのほか、必要になる活動	
B	にこにこボランティア
C	すくすくボランティア

る者」を対象としている。そのため、東北大学および大学院では養護教諭免許取得に必要な科目を開講していないことから、Cのボランティアについては掲載を行っていない。

ボランティア要請の資料には「活動の具体」および「備考」欄が設けられており、学校ごとに、より詳細な活動内容やボランティア学生の希望条件が示されている。事務局ではこれらを図2のようにまとめ、PDFファイル化して掲載を行っている。その際、必要に応じて表現・表記を修正し、募集ごとの条件を比較しやすい形式とした。また、回答の期限や備考に指定がない場合には「なし」とした。

学校名	仙台市立 ○○ 小学校
活動期間・時間	○月○日（△）～○月○日（△） ○時○分～○時○分
人数	○名
対象学年	○学年
活動内容	（A①、Bなど）
活動の具体	△△△。
回答の期限	令和6年○月○日（△）
備考	△△△。

図2 ボランティア要請のとりまとめ形式

## 2-2. 本学学生の活動状況

今年度のClassroomへの登録者は32名、ボランティア活動者は12名であった（2025年1月31日現在）。図3は登録希望の申請を受け、新たにClassroomへ登録を行った件数を

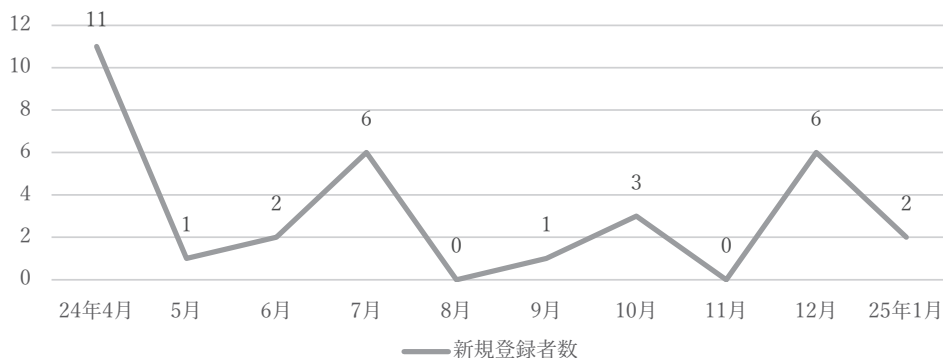


図 3 2024 年度の Classroom への新規登録者数

月ごとに集計したものである。このうち 2024 年 12 月については、上述した内諾済みの活動要請を取次いだものが 1 件（5 名、うち 1 名は既登録）、本学の演習科目を通した活動希望が 1 件（2 名）となっており、本事業の広報資料を経由した登録希望ではなかった。この点をふまえると、図 3 からは、各学期のはじめに Classroom への登録を申請する学生が多いこと、また、学期終わりにも申請が増加する傾向にあることが示唆される。しかしながら、図 1 のようにボランティア要請は年度当初に出されるものが最も多く、長期休暇明けの 9 月にはやや増加するものの、年度途中から開始される要請はあまり多くない。加えて、各要請には回答期限が設けられているため、学期終わりや後期のはじめに Classroom に登録した学生にとっては活動先の選択肢が限られたものとなっている。本事業に関心をもった学生をなるべくボランティア活動に繋げるためには、Classroom への早期の登録の推奨や、回答期限を迎えたボランティア要請の取扱に工夫が必要と考えられる。

なお、今年度において実際にボランティア活動に参加した学生の所属および人数は、表 2 の通りであった。また今年度は大学院生の活動希望はなかった。

表 2 所属ごとのボランティア活動者数

	学部・研究科	人数（名）
学部	教育学部	8
	文学部	2
	理学部	1
	農学部	1
	計	12

### 3. 活動の振り返りと今後の課題

最後に、学校ボランティア事業の運営を行う事務局として、今年 1 年間の活動を振り返

り、今後のより良い活動のために課題と来年度への抱負を述べる。

#### 稲垣

事務局員として2年目を迎えての活動でした。昨年度の反省を生かしながら、より分かりやすく、円滑な連絡ができるよう取り組みました。昨年度より継続してご参加いただいた方々に加え、新たに登録・活動いただいた方も多く、大変ありがたい思いでした。活動に携わられた皆様の経験が、それぞれに充実したものであったことを願います。

今年度は、昨年度より継続いただいた方のおかげもあってか内諾済みの要請が複数あり、また学部演習科目を通じた活動希望を受け付けるなど、関係各所との調整を要するケースがいくつかありました。ご対応いただいた仙台市教委のご担当者様、ならびに本学の先生方に感謝申し上げます。今後も、少しでも関心をもっていただいた方になるべく機会を提供できるよう、より良い事務局の在り方を模索していきたいと思えます。

#### 後藤

昨年に引き続き、大半の事務作業を稲垣君に担当して頂いた。Classroom上での管理についても創意工夫を発揮して、より使いやすいものになった。これにより、今後このシステムの管理を担当して頂く方の便宜も図られたと感じている。稲垣君には改めて感謝を申し上げます。

もともと、本来は他大学同様に、大学の事務職員がになってしかるべき業務である。今後は、先端教育研究センターの助教の方にもお力添えを頂き、大学院生の力を前提とする現状の運営方法を変えていく必要がある。そのためのアクションを起こすことが自分自身の課題である。